

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年5月21日(金)

◇ 粛々と進められていた【祝日】の改正 よもやまばなし

緊急事態宣言の発出を受け、行事をふまえた年間予定の見直しを行い、修正年間予定表を保護者向けに配付した。その時に気付いた「よもやまばなし」。

学校が作成する年間予定表とカレンダーの「8月の祝日」の齟齬に気づき、調べてみた。★カレンダーの「山の日」は、8月11日(水・祝)

☆学校予定表の「山の日」は、8月8日(日・祝)9日は振替休日
正しいのは教務主任が作成した学校の予定表。流石の成瀬教務主任である。

カレンダーに誤りがあるのには理由がある。当然のことながら、カレンダーは前年に作成されるのがほとんどだが、意外と作成会社の準備が早い。対して、休日に関わる特措法の改正案が可決されたのは年の瀬が迫る11月27日の参議院本会議。このころは、すでにカレンダーは販売されているのだ。

では、なぜ祝日が移動したのかと言え、7月23日の「スポーツの日」と同様にオリンピック関連である。後述(裏面)で詳しく述べる。

昔の「体育の日」(現在の「スポーツの日」)は10月10日だった。区切りのよさが目につくが、この日は昭和39年開催の東京五輪の開会式の日。この日に設定した理由は、過去何十年もの記録を遡り、「最も快晴が多かった日」を選んで開会式に設定したのだ。スポーツの秋と言われるように気候もいい。何より、粋な取り計らいである。後年(昭和41年)、東京五輪を記念して祝日に設定したのも粋である。

対して、現在の五輪開会式は、運動にあまり適しているとはいえない夏季(7月もしくは8月)真っ盛り。これは、五輪を支えるアメリカの巨大スポンサーの影響が大きいとされている。商業五輪の色合いが強いものの、夏休み期間中に大会が開催されることで、子供たちが五輪に触れることができるのは幸いであろう。

さて、「スポーツの日」と改名された旧体育の日は、7月23日。これは2021東京五輪の開会式の日。しかし今年限りで、来年から元の10月第2週に戻る。

ずいぶん「山の日」から話題がずれてしまったが、「山の日」を8月11日から8月8日に変更したのは、前述のとおりオリンピック関連だ。

昨年に遡れば、「山の日」は8月10日。昨年も8月11日ではなく、開催予定だった2020東京オリンピックの閉会式の翌日に設定された。閉会式当日ではなく閉会式の翌日に設定したのは定かではないが、『五輪の余韻をゆっくりと楽しむ』ということか。

ところで、間近に迫った2021東京オリンピックの閉会式は8月8日。そう、「山の日」である。前年に設定した閉会式の翌日からまたズれている。

ここにも理由がある。

2021年東京オリンピック閉会式翌日の8月9日は、長崎に原爆が投下された日であり、慰霊日に祝日をあてることを避けたからである。これは大正解だ。

そんなわけで、2021年の山の日は、カレンダーにある8月11日ではなくて8月8日（9日の月曜日は振替休日）なのである。

そもそも、現在もなじみの浅い「山の日」。「海の日があるから山の日も…」という発想があったという。そして、当初の最有力候補日は、13日からのお盆休みとつながる8月12日だった。これを前日の11日に定めたのは、8月12日が「御巢鷹山の日航機墜落事故の日」と重なることを避けたと言われている。納得である。

東京五輪の開催はやぶさかな状況にあるが、特措法や祝日法の改正、祝日の設定、移動等、「将来性」や「多くの人を楽しめる」という観点を持ち、焦点をあてたように、様々な観点での検討が必要であろう。議論を重ねたうえでの決定ならば、誰も文句は言うまい。

結論：幾つになっても、調べ学習は楽しい。

大切なのは、興味をもつこと。興味を抱かせること。授業も同じ。